

福島県産の農産物セットが共同購入で人気 ～生産者、消費者、生協で気持ちを共有したい～

共同購入で、福島県産の農作物をお届けしよう！

7月28日、福島市鎌田の桃畑にて、産直センターふくしまの桃の「かさかけ」作業が行なわれました。37度の猛暑の中、活動したのは、サンネット事業連合(以下、サンネット)の共同購入担当者と、取引先の計28人です。

この取り組みは、「生協の職員として、生産者の役に立ちたい」という職員たちの強い気持ちが生んだ企画です。企画意図について、サンネット共同購入商品本部農産事務の遠藤敬(えんどう・たかし)さんは、「組合員さんは、『買って』応援する、生産者さんは、それに応え最高の果物・野菜を作る。われわれ職員も、何かして応援したい、という気持ちが強くなってきました。そこで、現在供給している『福島県産 絆ボックス』

(以下、絆ボックス)の取り組みの一環として、行なうことにしました」

「絆ボックス」とは、福島の農産物がセットになった、サンネットの宅配の商品です。1セット、1,000円で売られています(8月2週～10月1週の企画。10月2週からの企画は、セット内容を変更し、680円で供給)。

このような、買って産地を応援する企画は、2011年6月の共同購入(宅配)企画よりスターとしました。初企画は、2011年6月の第1週～7月第4週までの

9週間に渡って行なわれた「がんばろう！ふくしま 農産品応援ボックス」です。この企画は、震災から1カ月ほどたった4月15日に実施が決定。みやぎ生協の方針として、その時点ですでに、「放射線検出値が基準値以下だった場合、組合員さんに供給する」と決定していました。そのため、共同購入での供給が決まった際、反対する職員は一人としていませんでした。遠藤さんは、「とにかく福島を生産者さんを支援したい、という一心で職員全員が働いていました」と話します。

この応援ボックスでは、福島産の野菜3種類を5点詰め合わせ、1セット500円で組合員に届けました。計12万8,604個売れたといいます。

次々と企画される、福島の応援セット

続いて企画したのが、果物ボックス。こちらは、9月2週～の5週間と、11月3週、12月2週と企画をし、1,000円で旬の果物(なし、桃、ぶどう、かき、りんご等、季節に応



「桃を食べるたび、この畑を思い出したいと思います」と語る参加者。

じて)を供給しました。こちらは、2万3,790個買っていただくことができました。

3回目の企画として、2月3・4・5週と3月1週にて、農産品680円で2万263個の供給、4回目の企画として、2012年6月1週~7月1週にて、農産品680円で1万9,276個の供給、5回目の企画は、8月1週~9月1週で果物1品(梨、桃)と野菜4品を入れて1,000円のボックスを、10月2週からは、農産品680円で売り出し、1万3,029個の供給となりました。6回目は、8月2週~10月1週、11月3週、12月2週の企画で果物の応援ボックスを供給しています。9月18日現在、合計約22万個の供給となっています。

これらのボックスには、組合員がメッセージを書けるよう、メッセージカードも添付しました。そうしたところ、多くの組合員からメッセージが届きました。その数は、約1,000通にもなります。「とてもおいしくいただきました。きちんと検査をして出荷しているものだから安心して食べることが出来ました。福島農家の皆さん、私たちがついていきますのでがんばって下さい。応援しています」「毎回購入しています」など、応援の声が送られてきています。

遠藤さんは、「震災直後の情報が不安定な中、このように多くの方に利用していただいているということは、生協への信頼が厚いということだと思います」と話します。

守るべきものを守っていくために、生協への信頼を力に変えて、生産者と消費者、そして生協が一体となって活動をしていくことが、今後ますます求められていきます。



共同購入で人気となった
福島県産の農産物を詰め合わせ。